

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年 (国語、算数、理科、質問調査)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	67人	算数	67人	理科	68人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	70人	算数	70人	理科	71人
------	----	-----	----	-----	----	-----

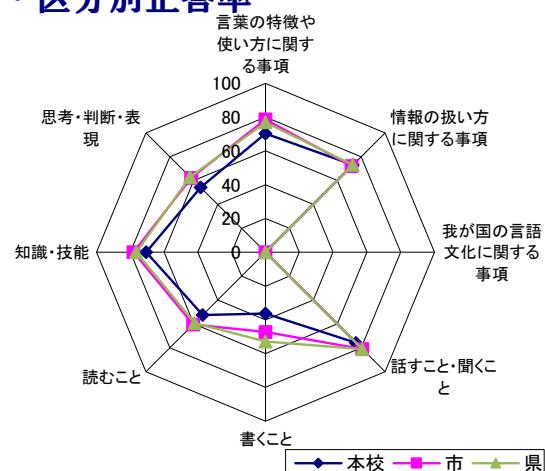
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.3	78.6	76.9
	情報の扱い方に関する事項	73.1	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	75.8	81.0	81.1
	書くこと	36.2	47.2	52.8
	読むこと	52.6	60.5	59.3
観点	知識・技能	70.6	78.0	76.5
	思考・判断・表現	54.3	62.3	63.1



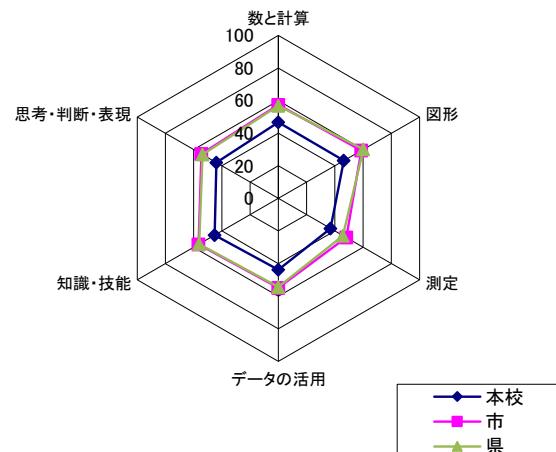
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の重点	
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は70.3%で、市の平均を8.3ポイント下回っている。</p> <p>○ローマ字で表記されたものを読む問題では、正答率が高く定着が見られる。</p> <p>●漢字の読み書き、主語と述語の理解に課題が見られる。特に、漢字の読み書きについては、市の平均より低く、無回答も多く見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習や、ミニテストの実施により、習熟を図りながら、国語の学習に限らず、日頃から既習の漢字を使えるように支援する。 授業の中で、教材文や短い文章の中から、主語と述語を探す活動を取り入れ、定着を図る。 	
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は73.1%で、市の平均を0.9ポイント上回っている。</p> <p>○国語辞典の使い方の問題では、市の平均よりやや高く、適宜、国語辞典を使って語句を調べている成果が表れていると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、適宜、国語辞典を引き、言葉の意味だけでなく、例文や類語、対義語などにも着目し、調べた言葉を活用できるように習慣づけていく。 	
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は75.8%で、市の平均を5.2ポイント下回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、平均正答率が91.0%で、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>●司会者の発言として参加者の発言をもとに考えをまとめる問題では、平均正答率が61.2%で、市の平均を9.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話合い活動では、司会者を中心に、自分の考えだけでなく、友達の考えをよく聞き、考えをまとめられるように進めさせる。 発言をするときには、相手に伝わるように、理由を挙げながら話すことができるよう、支援する。 	
書くこと	<p>平均正答率は36.2%で市の平均を11ポイント下回っている。</p> <p>●書くことの問題については、無回答がどれも30%程度であった。正答率も大きく下回っている。制限のある中で文章を考えたり、自分の考えを明確に表したりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書く目的を明確にするとともに、短い文章で自分の考えや思いを書く活動を充実させることによって、書くことに対する抵抗感を下げていくようにする。 自分の意見を理由を挙げて伝える方法の習熟を図り、書くことの習慣化を図る。 	
読むこと	<p>平均正答率は52.6%で市の平均を7.9ポイント下回っている。</p> <p>●文章から代名詞が指しているものや文の意味を別の表現に置き換えたり、要約する問題に課題が見られる。文章の要約を読み、言葉を書き入れる問題では、無回答が40%以上見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習の中で、代名詞が指していることの確認を行うようになる。 目的をもって本や文章を読む授業を充実させる。 読書を推奨し、級友に紹介するなどの学習を繰り返し行うことによって、文章を読む経験や要約する力を養っていく。 	

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	46.7	57.4	56.9
	図形	46.3	58.7	60.1
	測定	36.9	48.1	45.7
	データの活用	43.8	54.9	54.3
観点	知識・技能	45.2	56.6	56.2
	思考・判断・表現	44.0	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

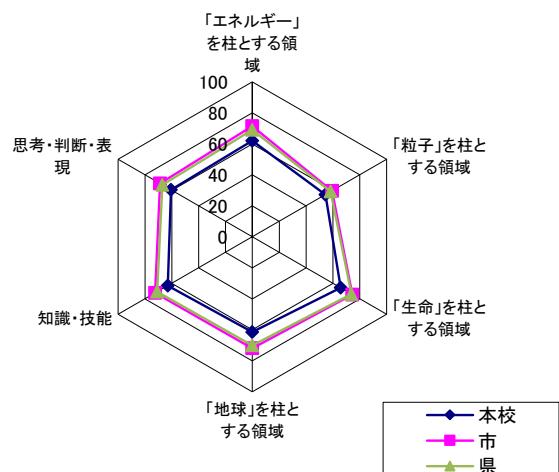
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
数と計算	平均正答率は46.7%で、市の平均を10.7ポイント下回っている。 ●分数の表す正しい大きさを答える問題で、基の大きさを理解することに課題が見られる。 ●わり算の文章問題において、あまりを考慮して、問題を解く際に、切り上げて処理することが出来ていない児童が多い。	・分数の問題では、具体物を用いて、視覚的に量が分かるようにさせ、量感を養えるように指導する。 ・わり算の問題では、文章問題を解く際に、場面がイメージできるよう、図や数直線を用いて、あまりを処理できるよう指導する。	
図形	平均正答率は46.3%で、市の平均を12.4ポイント下回っている。 ●球の断面図を想像する問題において、問題の図をそのまま読み取り、橢円形を選択してしまう児童が多い。 ●コンパスの使い方やコンパスを使っての作図の正答率が低く、正三角形の性質の理解やコンパスの使い方に課題が見られる。	・ボールなどの具体物や模型などを使って、円や球における直径や半径などの言葉の意味や関係の理解を促す。 ・作図の問題では、作業時間を十分確保したり、友達と学び合う学習形態をとったりするなど、算数活動を大切にして指導する。	
測定	平均正答率は36.9%で、市の平均を11.2ポイント下回っている。 ●時刻と時間を理解し、計算によって、時刻を求める問題に課題が見られる。 ●重さを基準量のいくつ分かで考える問題で、てんびんが釣り合うためには、どちらの皿にいくつおもりを乗せるのかを説明することに課題が見られる。	・時刻や時間、何分後や何分前などについて、他教科や日常生活で活用が図れるようにする場を設け、有用性を実感させる。 ・具体物の操作を取り入れて、実際に測る活動や場面を視覚的に捉えさせることで、問題場面の把握ができるようになる。	
データの活用	平均正答率は43.8%で、市の平均を11.1ポイント下回っている。 ●表の合計欄を求める問題で、無回答が44.8%であることから、問題に到達していないか、理解できていない児童がいると考えられる。 ●問題に合った傾向を表から読み取ったり、答えを求めたりする問題に課題が見られる。	・表やグラフに慣れるよう、繰り返し学習する必要性がある。他教科や係活動などの学級活動でも積極的に活用して、身に付くように指導する。	

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	62.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	54.4	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	65.8	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	61.4	72.0	70.1
観点	知識・技能	63.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	60.7	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は62.0%で、市の平均を9.4ポイント下回っている。</p> <p>○糸電話における音の伝わり方について、糸の振動を止めると、音はその先に伝わらないことを理解している。</p> <p>○ゴムカーブの輪ゴムの本数と動いた距離の関係を理解し、グラフを選ぶことができる。</p> <p>●「電気の通り道＝回路」という言葉の理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電池と豆電球を用いて実際に回路を作って電気を流してみたり、電球・豆電球・導線を並べて回路を作ったりして、「電気が流れる＝輪になっている」ことを実感できるような場を設定する。 ・電気を通すもの、通さないものを実験の中で分類できるような活動の場を設定する。
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は54.4%で、市の平均を4.9ポイント下回っている。</p> <p>○形を変えた時の粘土の重さについて、予想と結果を結び付けて考えることができる。</p> <p>●実験結果を比較し、なぜ友達と違う結果が出たのか、理由を推測することに課題が見られる。</p> <p>●体積は同じでも、材質によって重さが異なることへの理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の班はなぜこの結果になったのか、客観的に振り返ることができるように、実験結果や手順を、個人や班ごとに共有する時間を設定する。 ・身近な素材に着目するようにし、材料が違う同体積の物を実際に持ったり、重さを測ってみたりすることで、実感を伴った理解ができるようにする。
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は65.8%で、市の平均を8.7ポイント下回っている。</p> <p>●モンシロチョウとトンボの育ち方の違いについての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の育ちや昆虫の育ち方を継続して観察し、記録カードにまとめるとともに、いくつかの植物や昆虫を比較し、同じところや違うところを見つけて、資料を読み取る力の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は61.4%で、市の平均を10.6ポイント下回っている。</p> <p>●方位磁針や温度計の正しい使い方に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽の1日の動き方についての習熟を図るとともに、方位磁針などの理科観察道具を実際に使用する頻度を増やし、使い方の定着を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の学習が好きですか。」の肯定的回答は、80.3%で県平均70%を大きく上回った。「国語がしよう来のために大切だと思いますか。」については、肯定的回答が100%であった。また、「1か月に、何冊くらい本を読みますか。」では、5冊以上読むが59.1%の回答であり、県平均を13.4ポイント上回っている。これは、週1回の学級での図書室利用や読書ボランティアによる朝の読み聞かせなどの効果が表れているものと思われる。今後も今までの取組を継続していくとともに、「宇都宮市電子図書館」児童書読み放題パックなどを周知・活用し、継続して本に親しむ機会を与えていきたい。

○「学校のきまりを守っている。」の肯定的回答は、98.5%で県平均を4.3ポイント上回っている。また、「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う。」の肯定的回答が92.4%であり、学校課題である学級活動の研究の実践の成果が表れていると思われる。今後も「自分たちのクラスは自分たちでつくる」という態度の育成に努めていきたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的回答は、87.8%で、県の平均を12.5ポイントも上回っている。こちらも学校全体で取り組んでいる特別活動の研究の成果だと考えられる。今後も学級活動での話し合い活動で習得したことを各教科・領域、係活動などの活動に生かせるようにしていきたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」の肯定的回答は、96.9%で、県平均を6.2ポイント上回っている。日ごろから児童の努力を見取ったり、積極的に児童一人一人のよさを認め励ましたり取組を実施していることの成果と思われる。今後も、継続して多様な視点で子供を認め励まし、児童の自信や自己有用感が高められるようにしていきたい。

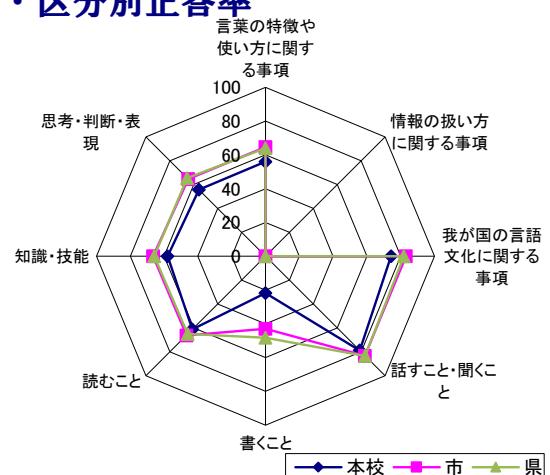
●「勉強していく、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答は、80.3%であり、県平均を3.1ポイント下回っている。今後も各教科等の学習において、授業中、「宇都宮モデル」である「はっきり！ じっくり！ すっきり！」を意識し、児童自らが自分事として主体的に課題に取り組める様にしていくことが肝要である。

●「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、テレビ・DVD・ゲーム・メール・インターネットを使用しているか。」については、2時間以上使用している割合が、すべてにおいて県平均より高い。今後も学級活動や道徳の時間に、家庭における時間の活用の仕方について考えさせていきたい。また、学年だよりや懇談会、「ノースマホ・ノーゲームデー」等を活用し、家庭との連携を図るとともに、時間の有効活用の仕方について考える機会を作っていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	56.0	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	74.3	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	78.9	83.3	83.4
	書くこと	21.8	42.8	48.2
	読むこと	61.3	66.1	65.1
観点	知識・技能	57.9	66.5	65.9
	思考・判断・表現	55.8	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

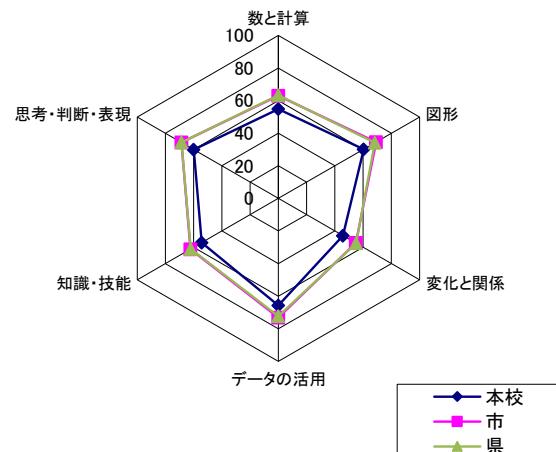
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は56.0%で、市の平均を8.7ポイント下回っている。</p> <p>○文の中における修飾語と被修飾語の関係を捉えることは市の平均を6.2ポイント上回った。</p> <p>●漢字の書きの正答率についてはどの問題も20ポイント前後低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きについては、引き続き漢字スキルや1人1台端末を利用して繰り返し練習させ定着を図る。 ・部首の意味や成り立ちを理解させ、漢字に興味がもてるよう指導を工夫する。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は74.3%で市の平均を8.8ポイント下回っている。</p> <p>●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ことわざの意味を調べたり、似たことわざを集めたりする活動を適宜取り入れる。 ・スタンダードダイアリーのことわざや慣用句を活用し、授業や生活の中で取り入れたり、家庭学習にも推奨したりする。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は78.9%で、市の平均を4.4ポイント下回っている。</p> <p>●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言の内容を基に考えをまとめるに課題が見られる。</p> <p>●無回答率が、14.3%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きたいという必然性をもたせるために、課題や目的を明確にし、聞き合った内容を次の活動に活かすなどして、最後まで集中して話を聞くことができるようとする。 ・教科横断的に、お互いの考えを聞き合い、自分の考えをまとめて伝え合う時間を適宜設ける。
書くこと	<p>平均正答率は21.8%で、市の平均を21ポイント下回っている。</p> <p>●指定された長さで文章を書いたり、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。</p> <p>●無回答率が、51.4%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りや学級タイム等を活用して「書きたいむ！」の時間を設け、書くことの習慣化を図る。 ・書く目的や意図を明確にし、考えを自分の言葉で書こうとする意欲を高める。また、条件を提示するなどして、考えを的確に表現できるようにする。
読むこと	<p>平均正答率は61.3%で、市の平均を4.8ポイント下回っている。</p> <p>○登場人物のやりとりから、感想や考えをもち、空欄に適するものを選択肢から選ぶことができている。</p> <p>●叙述を基に文章の内容を捉え、適する言葉を書き抜いたり、文章の内容と合っていることを話している人物を選んだりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習等で読書の時間を設けるなど、読書量を確保する。また、文章の内容を要約して他者に伝えるなど、アウトプットをする場を設ける。 ・音読活動を工夫して、音読の楽しさを味わわせることによって、文字を正しく読む力を高める。 ・目的をもって本や文章を読む授業の充実を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.8	63.0	63.3
	図形	60.4	69.2	68.3
	変化と関係	45.7	54.8	55.0
	データの活用	65.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	54.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	60.0	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

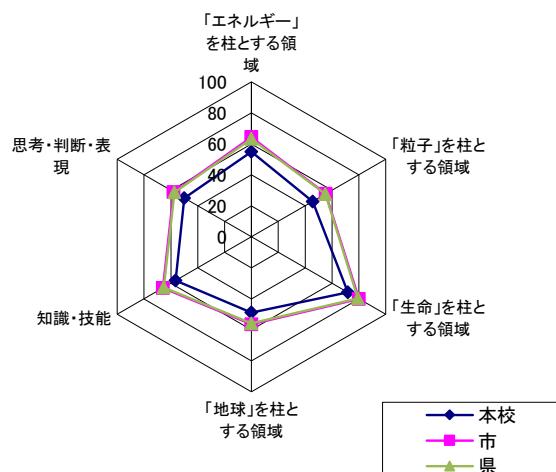
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は54.8%で、市の平均を8.2ポイント下回っている。</p> <p>○大きな数の万と億の関係は理解できており、市の平均よりやや高い。小数第2位×整数のかけ算でも、やや高い。</p> <p>●分数については数直線上の目盛りから分数を読み取り仮分数で表すことへの理解に課題が見られる。2けた÷2けた(あまりあり)の計算では、読み取りへの理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で活用する場面と関連付けて、基本的な計算能力を形成していくために、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 計算の工夫について説明できるように、工夫のよさについて復習するとともに、他者へ分かりやすく説明し表現する機会を意図的に設定する。 分数の大きさについては、1を何等分したかに着目せながら、分母と分子の意味を理解できるようにする。特に数直線を用いることで視覚的に大きさを確認できるように支援しながら復習を取り入れつつ指導を工夫する。
図形	<p>平均正答率は60.4%で、市の平均を8.8ポイント下回っている。</p> <p>●三角定規の角度の理解や角度の大きさの求め方の理解に課題が見られる。</p> <p>●ものの位置の表し方では、読み取りへの理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 角度を調べる際には、三角定規を活用する場面を設け分度器以外のものでも角度を図る作業を取り入れる等、指導の工夫を行う。 授業において三角定規の角度の確認を都度行い、直角三角形や二等辺三角形への理解を深める。 ものの位置の表し方では、図と文章を照らし合わせた問題を繰り返し行い、学力の定着を図る。
変化と関係	<p>平均正答率は45.7%で、市の平均を9.1ポイント下回っている。</p> <p>●表をたてに見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題や、割合を用いて比べる場面について分かることを説明することにおいて、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表に分かったことを書き込む習慣をつけることで、変化について比較できるようにさせる。 問題場面において、もとにする数や比べられる数を色分けするなどして、比較する際のヒントとなるように支援を行う。また、繰り返し行い、学力の定着を図る。 解答をする際に、自分の考えを文章で表現できるよう、ノートに自分の考えを書く場面を授業の中で多く取り入れる。
データの活用	<p>平均正答率は65.7%で、市の平均を7.4ポイント下回っている。</p> <p>○グラフの傾きから変わり方を読み取ることについては、市の平均をやや上回っている。</p> <p>●二次元の表の意味の理解や傾向の読み取り方に関しては、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な表の読み取り方を再度確認する。 グラフから読み取ったことを説明する問題では、無回答もあることから、課題に対して自分の考えを書いたり、根拠や具体物を示しながら考えを話したりする活動を多く取り入れる。 グラフの読み取りについては、他教科との関連も図り、比較する観点や着目するポイントについて指示することで習熟を図る。 文章を読んで答える問題への抵抗が減るよう、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	54.9	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	45.6	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	71.8	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	48.9	56.4	55.8
観点	知識・技能	56.5	66.0	65.3
	思考・判断・表現	50.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は54.9%で、市の平均を9.4ポイント下回っている。 ●図で示された回路における乾電池のつなぎ方の名称の定着に課題が見られる。	・各自の実験道具を活用し、直列つなぎと並列つなぎそれぞれの繋ぎ方で、それぞれの特徴について図を用いるなどしてノートやワークシートにまとめて確認することで、実感を伴った理解を促す。 ・実験は各自が行い、その上でペアやグループなど協働して学習することで、正しい結果が得られるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は45.6%で、市の平均を9.8ポイント下回っている。 ○ピストンを使って、閉じ込めた空気を圧した場合の手ごたえは大きいことを理解しており、平均正答率より1.6ポイント高い。 ●空気と水の、温度による体積の変化について、ガラス瓶で行った実験結果を基に、変化の程度に違いがあることの理解に課題が見られる。	・ピストンを使った実験は、各自の実験道具を使って何度も実験を行うことで、十分に理解できたと考えられることから、他の実験においても、できるだけ少人数で実験を行ったり、時間を十分に確保したりすることで、理解が深まるようになる。 ・実験道具での実験で得た結果が、身近な物や生活と繋げて考えられるように、教師が紹介したり、課題を投げかけたりする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は71.8%で、市の平均を8.3ポイント下回っている。 ●骨のはたらきについて、「体を支える」こと以外の働きについての知識の定着に課題が見られる。	・骨格標本や映像資料による学習だけでなく、自分の骨格を認識し、体感型学習を行うことで知識の定着を図れるようにする。 ・単元のまとめの活動に、1人1台端末を活用して課題解決を行えるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は48.9%で、市の平均を7.5ポイント下回っている。 ○空気中の水蒸気が冷やされると水になることを、身近な出来事と関連付けて考えることができるかどうかについては概ね理解している。 ●水が水蒸気に代わって空気中に出ていく現象の名称の定着に課題が見られる。	・現象については、身近な出来事と関連付けられるよう意図的な声掛け等を行い、意識付けを図る。 ・名称の定着については、学習した以降にも、様々な場面において積極的に用いるよう心掛ける。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○「授業を集中して受けている。」の肯定的回答は95.9%で県の割合を3.6ポイント上回っている。また「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の肯定的回答は95.9%で県の割合を2.5ポイント上回っている。これは、日ごろから児童が課題解決に必然性を感じ、目的意識を明確にして取り組むことができる単元づくり、授業づくりを心掛けて指導してきた結果と考えられる。

○「家人の人と学校でのできごとについて話をしている。」の肯定的回答は89%で県の割合を1.7ポイント上回っている。また「自分は家族の大切な一員だと思う。」の肯定的回答は98.7%で県の割合を3.9ポイント上回っている。ホームページや学校だより等での情報発信や日々の学校生活の様子が家庭の話題となり良好な親子関係の一助になっていると考えられる。教師も保護者も子供のよりよい成長を願っている。そのことをお互い分かり合うことで、子供を育てるための相乗効果となって教育効果は高まると考えられる。

●「家で学校の宿題をしている。」の肯定的回答は95.9%で県の割合と同程度である。しかしこれは「はい。」と回答した児童と「どちらかといえばはい。」と回答した児童の合計であり、「はい。」と回答した児童だけで比較すると本校は68.5%で県の割合を15.3ポイント下回る。また「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」の肯定的回答は68.5%で県の割合を13.3ポイント下回っている。このことから、自立的な学習を目指し、宿題だけではなく自分ごととして取り組めるような自主学習を奨励していく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく)。」の4時間以上の回答は16.4%で県の割合を10.2ポイント上回っている。また「時間を上手に使うことを心がけている。」の肯定的回答は61.7%で県の割合を17.2ポイント下回っている。このことから携帯電話やスマートフォンを使用している時間が長く、時間を上手に使えていないと感じている児童が多いことがわかる。家庭学習を単に「こなす」だけでなく、自分に必要な学習を考え、有益な取り組みができるようにする自己調整力を育むことが大切であると考えられる。

宇都宮市立緑が丘小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に關わる調査結果
・基礎・基本を定着させるための取組	・「宇都宮モデル」を活用し、どの授業においてもねらいを明確にし、「はっきり！じっくり！すっきり！」を合言葉に、課題をはっきり理解し、課題解決にじっくり取り組み、学んだことをすっきり納得できるような指導を行っている。	・授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていると感じている児童は4年生で96.9%、5年生で87.7%である。また、目標やまとめをノートに書いている児童は、4年生で90.9%、5年生で83.5%である。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・他者との交流や自分自身の問い合わせ、目的に応じた1人1台端末の活用など、児童が多様な方法を選択し、組み合わせながら、粘り強く主体的に学習に取り組むことができる授業改善を行っている。	・分からぬことを書籍やインターネットで調べている児童は、4年生で74.2%、5年生で65.8%である。・友達と話し合う際に、友達の話や意見を最後まで聞くことができている児童は4年生と5年生ともに90%を超えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、4年生と5年生ともに、国語の「書くこと」や、算数の説明を要する設問において課題が見られる。	・課題解決に必然性を感じ、目的意識を明確にして取り組めるような活動の充実	・目的を明確にし、教科に関わらず、「書きたいむ！」の時間を設け、書くことが習慣化され、書くことの有用性が感じられるような取組を行う。・パワーアップシートを活用し、学習の定着を図る。